



# 探究型授業の実践を心がけて ～「発問」と「方法」の工夫～

岡山県立岡山一宮高等学校 片山 肇

## 1 本時の工夫

### (1) 仮説を立て、検証実験の方法を考える

- 自分の仮説を検証するための方法を考える

### (2) 自分の考えを班員と協議

- 班員との協議で考えが深まる

仮説→実験→発表

### (3) 実験方法の工夫を生徒自身が行う

- 実験結果を見ながら方法を思考する
- 班員と協議することで最適な実験方法を発見する

### (4) 発表をホワイトボードで行う

- 方法、結果をわかりやすくまとめる力を養成する
- 他班の方法、結果を見て、思考をさらに深める
- 時間短縮

### (5) 自らが発見、その理由を考える

- 自分たちの実験で現象を発見する
- 理由を既習事項を用いて思考、班員と協議する
- 既習事項の重要性を伝授

個人で考える

### (6) 振り返り

- 重要事項を確認する
- 班員と確認する

班員に発表・協議

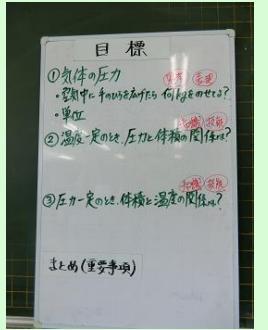
他班の結果を考察

考えが深まる

## 2 授業の工夫

### (1) 目標、授業計画、まとめの板書

- 目標ボードの使用
- 「知識・理解」「思考」「判断」「表現」などの項目を貼る
- 目標の下にまとめ、重要事項などを書く



### (2) 「発問」の検討、工夫

- 毎時間に少なくとも一つ
- 興味を持って考えようとする内容

### (3) 思考方法の工夫

- 個人で考える→班で協議するの流れ
- 個人、2人、4人など
- 授業プリントの構成

発表者は後から決定

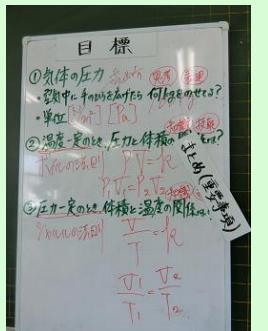
### (4) 表現の工夫

- 発表者は後から指名して班員全員が学び合い
- 自分の考えを書いた後に発表
- ホワイトボード、教材提示装置、裏紙、口頭など
- 時間を提示して時間内にまとめる能力の育成

### (5) 授業プリントの改訂

- 時間効率、理解度の向上を目指して工夫した

### (6) 教室の整備→物理教室清掃、整理等を行った



## 3 発問

### (1) 様々な発問の目的

- 考える力をつけるための発問
- 重要事項を覚えるための発問
- 技能を身につけるための発問
- 協働するための発問

### (2) 発問集の作成

- 分野ごとに「発問」を制作
- どんな力を身につけさせたいか、どのようなスタイルで授業を展開するかを記入
- (課題) 生徒の様子を記録しておく  
→次年度以降に改訂ができる

探究は発問からスタートする

## 4 課題

基礎知識が必要

- 深い学びを実践するためには基礎知識・技能が必要
- 班員の構成、席替えの頻度
- 授業進度と探究時間のバランス
- 探究授業用のプリントの改訂
- 自宅学習の徹底  
→授業では探究、自宅では基礎・応用学習  
→復習ノートの実践、授業はプリント学習  
分野学習後すぐに問題演習、週末課題